

プロジェクト名	大津まち遺産魅力発信プロジェクト会議	
設置日	平成25年7月31日	
目的	大津百町の歴史・伝統・文化を伝える大津町家をはじめとする建造物遺産や景観を構成する遺産「まち遺産」を保全継承し、その魅力を発信、かつ、まち遺産を活かした取り組みを検討、大津町家利活用プロジェクト会議やまちなかガイドプロジェクト会議と連携し、まちの品格があふれるまちづくりにつながることをめざした取り組みを促進する。	
活動内容 (予定含む)	①国登録有形文化財への登録申請支援 ②登録有形文化財や大津町家などの大津まち遺産の魅力発信 (まち遺産マップの改訂・イベント・ホームページ) ③大津まち遺産を活かしたさらなる取り組みの検討 (古地図・旧町名活用) ④大津まち遺産を保全活用するための支援体制づくり	
2期計画の位置づけ ※該当する方針にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> (基本方針1) 大津駅前・湖岸を結ぶ都市機能の集約・複合化 <input checked="" type="checkbox"/> (基本方針2) 大津百町の歴史・文化を生かす暮らしとにぎわい創出 <input type="checkbox"/> (基本方針3) 琵琶湖を生かす観光と環境共生のまちづくり 【該当事業又は関連事業】登録有形文化財を活かしたまちづくり事業、まちなみ整備事業(町家修景事業)、大津百町旧町名活用事業	
人数	6	
リーダー	柴山 直子	旧東海道まちなみ整備検討委員会 作業部会員
サブリーダー	大島 祥子	一級建築事務所スーク創生事務所 代表
プロジェクト委員 (五十音順)	木津 勝	大津市歴史博物館 学芸員
	白井 勝好	NPO法人大津祭曳山連盟 理事長
	橋本 敏子	登録有形文化財所有者
	森川 稔	大津の町家を考える会 会員
適用・特記事項		

1. まち遺産魅力発信PJ会議のめざすべきところ

『(仮称)ミーツ大津博』(平成29年度実施予定)に向けた取り組みを推進する。

➢ 『(仮称)ミーツ大津博』の企画策定のための実施体制づくりが必要。

2. 取り組みの基本の考え

- ① 大津百町のまち遺産をブランド化し、大津百町という地域のイメージの価値向上をめざす。
- ② 大津百町に潜在する おもしろい/魅力的な/知られざる「まち遺産=地域の魅力」の抽出と見える化
- ③ 大津百町の「まち遺産」をおもしろく/魅力的に/楽しく「情報発信」する効果的手法の検討

3. まち遺産魅力発信PJ会議が関わる取り組みとその流れ

(数字)は中活事業NO.

[未]は未実施事業

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度以降
まち遺産の見える化①	大津百町/旧町名看板活用(4)+サイン設置(5)				維持管理継続
		[未]長等学区旧町名設置(4)	[未]歴史・文化・観光サイン設置(5)		
まち遺産の見える化②	大津町家・近代建築/登録有形文化財(21)+まちなみ整備(17)				
	[継続]登録申請、登録有形文化財を生かしたまちづくり(21)				
	[継続]まちなみ修景(17)※まちなみ協定2エリア				
		・制度策定	・登録有形文化財保存修理事業 ・所有者のネットワーク		地域ブランドの情報発信継続事業へ
まち遺産の見える化③	旧東海道・大津宿/歴史遺産整備(6)(10)(15)				
	[継続]旧東海道まちなみ整備(3)※電線地中化		[未]札の辻高札場復元(6)/京阪旧札の辻駅 [未]大津宿本陣活用(10)/国有地 [未]大津事件等資料館整備(15)/碑近くの民家 <大津事件/松本瓦/町家/宿場町/> ◎大津市街並み博物館条例の適用は？		
情報発信①	まち遺産マップの更新		(仮称)		(仮称)ミーツ大津博の開催
	[継続]マップ →小冊子化 →ブック化		ミーツ大津博		
情報発信②	基盤地図のオープンソース化+古地図リスト化/活用				ミーツ大津博
	[継続]基盤地図完成→公開				
情報発信③	まちづくり大津のホームページの更新				ミーツ大津博
	[継続]マップに反映→公開				

[メモ] 道：北国海道/小関越、通り名：京町/中町/浜/八丁/大門、ニコライ・芭蕉の歩いた道……

平成24年度大津百町・登録有形文化財調査一覧【H24年度調査→H26年7月18日答申】

1 宮本家住宅主屋 昭和5年(1930) [図面]

木造2階建、瓦葺、建築面積 121.82㎡、大津市音羽台

ヴォーリズが、自身の通訳である宮本文治郎の自邸として設計。屋根はスペイン瓦葺、外壁スタッコ塗、縦長窓や半円アーチ窓を並べ、煙突二本を設ける。内部は、洋間主体で一部を和室とする。建物と調和が図られた建具や調度も保存良好で、居間のアルコーブや暖炉、緩やかな階段等にヴォーリズ建築の特徴をよく示す。



登録有形文化財登録基準「二 造形の規範となっているもの」に該当。

2 旧多田家住宅主屋 明治中期 [推定]

木造2階建、瓦葺、建築面積 81.78㎡、大津市京町2

下百石町の小路に西面する間口三間半の町家。明治中期頃の建物を、呉服商の多田佐一が昭和28年に購入。正面北寄りに戸口を開いて土間を通し、南側に出格子をたてて駒寄せで囲う。二階は虫籠窓を設け、両端に袖壁を付ける。内部は一列四室形式で、出格子内側の引込み板戸などに、大津の町家の特色を示す。



登録有形文化財登録基準「二 造形の規範となっているもの」に該当。

(有限会社柴山建築研究所 柴山 直子)

滋賀県庁本館や 栗原家住宅主屋

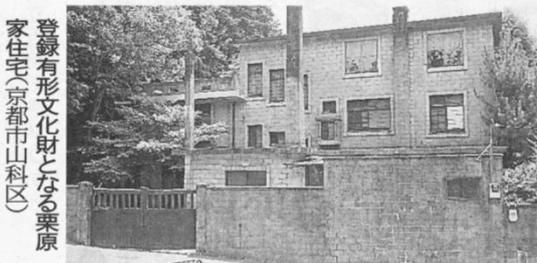
登録有形文化財答申

文化審議会(宮田亮平会長)は18日、「滋賀県庁舎本館」(大津市)や「神戸ポルトタワー」(神戸市)など28都道府県の建造物166件を登録有形文化財とするよう下村博文文科相に答申した。全国の登録数は9917件になる。滋賀県庁本館は、戦前最後の1939年に建てられた鉄筋コンクリート4階建て庁舎。中庭を囲む口の字型の建物で左右に翼部が伸びる。外壁は人造石とスクラッチタイル張り、正面中央と両翼にギリシャ様式の柱が並ぶ。内部は優美な装飾とともに通気性や採光など機能性も意識した設計となっている。神戸ポルトタワーは神戸港のシンボルとして63年に建てられ、高さ108メートル。日本初の鋼管ハイフレーム構造で、中ほどがくびれた外観が美しく、市民や観光客に愛されている。ほかの建造物は、船に音で位置を知らせるため明治



重厚な外観と優美な内装が残る滋賀県庁本館(大津市)

末期につくられ、かまぼこ形の屋根から突き出したラッパが特徴的な「旧犬吠崎霧信号所霧笛舎」(千葉県銚子市)など。京都府からは栗原家住宅主屋と門、堀(京都市山科区)が答申され、滋賀はほかに2件が入った。(山本旭洋) 滋賀県庁本館を除く京滋の答申内容は次の通り。栗原家住宅主屋・門および堀(京都市山科区) 京都高等工芸学校(現京都工芸繊維



登録有形文化財となる栗原家住宅(京都市山科区)

大)2代目学長の鶴巻鶴一の自邸として琵琶湖疏水に近い敷地に1929年に建築。現在の市考古資料館(上京区)などを手がけた同学校教授の本野精吾の設計。コンクリートブロックを生かした門と堀がある3階建ての建物で、無装飾のデザインが特徴となっている。 宮本家住宅主屋(大津市) 1930年にヴォーリス建築事務所手がけた近代洋風住宅。屋根にスペイン瓦を採用し、外観には半円のアーチ窓やバルコニーをバランス良く配置。居間の暖炉や緩やかな階段は円熟期のヴォーリス建築の特徴を示している。 旧多田家住宅主屋(同) 木造2階建ての小規模な町家。1階は1列に4室が並び、土間には井戸やくと(籠)が残る。外観とともに明治中期の大津の町家の構造を特徴付けている。

本館登録文化財に

県庁優美さと機能性

国の文化審議会は18日、県庁舎本館など県内で計3件の建造物を登録有形文化財に登録するように文部科学相に答申した。官報告示

などを経て、正式に登録される。現役の都道府県庁舎で国の文化財に登録されるのは愛知、神奈川、静岡、和歌山に次いで5件目。

県庁舎本館は、鉄筋コンクリート造りの地上4階、地下1階建て。日比谷公会堂などを手がけた佐藤功一らが設計し、1939年5月に完成した。戦時色が濃くなり、鉄材などの調達が

難しくなる中で完成にこぎつけた「戦前最後の大型建築」で、75年にわたって県民に親しまれてきた。

庁舎は、中庭を囲む口の字型で、正面側に東西に100m超延びる翼部がある。中央に塔屋をあげ、重厚な車寄せも備える。

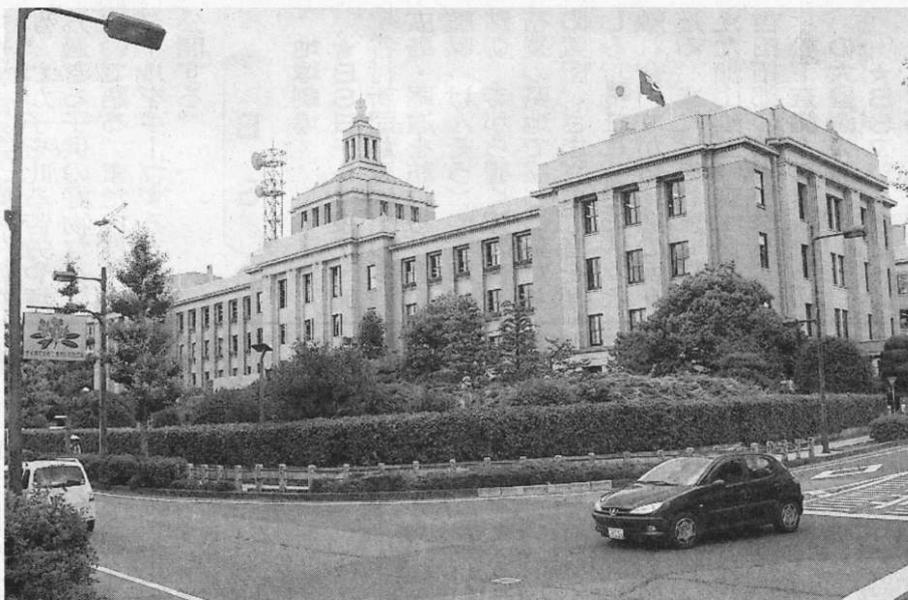
庁舎内には、正面中央階段や翼部の端にある県議会議場、知事室などに優美な内装が残る。一方で、中庭からの採光を意識して部屋を配置するなど、庁舎としての機能性の確保にも工夫がみられるという。県教委

の担当者は「合理性と格調の高さを両立させた庁舎建築の傑作」と話す。

このほか答申には、米国出身の建築家W・M・ヴォーリスの建築事務所が手がけた大津市の宮本家住宅主屋と、同市の旧市街地にある旧多田家住宅主屋の登録も盛り込まれた。

宮本家住宅主屋は、1930年に建てられた木造2階建ての洋風住宅。琵琶湖が一望できるように工夫した居間の配置や使いやすさを重視した食堂兼台所などにヴォーリス作品の特徴がみられるという。

旧多田家住宅主屋は木造2階建てで、明治時代中ごろの大津の町家のたたずまいを今に伝える貴重な建物だという。



県庁舎本館＝大津市京町4丁目